

科学をもっと知ろう！

かがくナビ

セコイア類化石林 時代

広瀬川の霊屋下セコイア類化石林は、約300万年前の噴火により流れてきた火山灰の下に埋まった立木が、珪化木や埋木（長く地中に埋もれ、炭化した状態の木）などになって残ったものと言われています。昭和38年の調査では直径30cm以上のものだけでも35本確認され、これだけの形で保存されている例は世界でも珍しく貴重なものです。その貴重さから仙台市の天然記念物に指定されています。現在では堆積した土砂によって埋まっているために1本くらいしか確認はできないようです。



この後、海になったところに堆積してできた地層が大年寺層です。この地層は、おもに砂岩・シルト岩よりなり、その分布は青葉山～大年寺周辺と青葉区芋沢地域に限られています。貝化石を多く含み、そのほとんどは、内湾の浅海にすむ現生種です。現在房総半島よりも南方に分布している種も含まれているので、現在よりも暖かかった海であったと考えられます。